

バイオマス地域利活用交付金(一般ハード事業)

東北農政局

都道府県	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	事業計画目標	目標達成状況		総合評価			備考
							実績値	達成状況	事業実施主体	都道府県	農政局等	
福島県	鮫川村	鮫川	鮫川村	新技術等の実証:堆肥化施設、バイオディーゼル燃料製造施設の整備	H26	計画受入量: 家畜排泄物 2,100t 食物残渣 4t 稲わら・もみ殻 329t 落ち葉 15t しいたけ菌床 58t 廃食用油 3,000ℓ 計画生産量: 特殊肥料 1,250t バイオディーゼル燃料 2,760ℓ	2,548t 6.8t 79t 6.1t 0t 3,363ℓ	121.3% 170.0% 24.0% 40.7% 0.0% 112.1%	家畜排泄物と食物残さについては、畜産農家や農産物直売所からの搬入が多かったことから目標を達成した。 また、廃食用油についても、バイオマスヴィレッジ構想の趣旨が理解されてきたため目標を達成できた。 それに比べて、未達成の稲わら・もみ殻、落ち葉、しいたけ菌床については、耕種農家への周知が徹底できなかったため目標が達成できなかった。落ち葉は、放射性物質の影響を懸念し新たな利用を自粛している。 また、バイオディーゼル燃料の利用については、現在給食車のみが利用しているため目標が達成できなかった。 稲わら・もみ殻、しいたけ菌床については、農家に広報等により周知していき、落ち葉については、放射線量が低減してから利用したい。 また、バイオディーゼル燃料の利用に関しては、施設内のローダー等に利用を進めていき、目標の達成につなげていきたい。	家畜排泄物と食物残さについては、畜産農家や農産物直売所からの搬入が多かったことから目標を達成した。 また、廃食用油についても、鮫川村バイオマスヴィレッジ構想の趣旨(100年後に輝き続ける村づくり)が理解されてきたため目標を達成できた。 稲わら・もみ殻、しいたけ菌床については、耕種農家への本事業の趣旨の周知が徹底できなかったため目標が達成できなかった。落ち葉は、放射性物質の影響を懸念し新たな利用を自粛している。 また、バイオディーゼル燃料の利用については、現在給食車1台のみの利用となっているため目標が達成できなかった。 稲わら・もみ殻、しいたけ菌床については、農家に広報等により周知していき、落ち葉については、放射線量が低減してから利用したい。 また、バイオディーゼル燃料の利用に関しては、施設内のローダー等に利用を進めていき、目標の達成につなげていきたい。	【所見】 堆肥を製造するための副資材の一部は目標未達成であるものの、堆肥は順調に製造され、村内農家を中心に販売されている。 また、バイオディーゼル燃料の製造量が目標未達成であるものの、堆肥を製造するためのホイルローダーで利用し、目標達成につなげていくことを検討している。 本事業で、村にあるバイオマスを活用→堆肥を製造(バイオディーゼル燃料をホイルローダーで利用予定)→農地に還元、また、村にあるバイオマスを活用→バイオディーゼル燃料を精製→学校給食車で利用するという、地域内で循環する仕組みができており、引き続きこの継続を期待したい。 【改善の方向】 副資材については、放射線量の影響から、早急に回収量を増やせない落ち葉を除き、耕種農家に広報などを通じて依頼をしていくことで増加していくと考える。 さらにバイオディーゼル燃料は、堆肥化施設のホイルローダーで使用することにより、目標は十分達成していけると考える。	現在、改善計画を調整中